宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2021

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

豊作祈る御田植祭を斎行

「はじまりの島」の伊弉諾神宮

兵庫県淡路市

梅雨の晴れ間の6月12日、兵庫県淡路市多賀にある伊弉諾（いざなぎ）神宮（本名孝圭吉昌司）で、五穀豊穣を祈る恒例の「御田植祭」が斎行された。コロナ禍でも応募してきた早乙女と児童ら各18人によって植えられた稲は氏子によって育てられ、10月の「抜穂（ぬいほ）祭」で収穫され、稲束を伊勢神宮の神嘗祭に奉納するほか伊弉諾神宮の祭儀で神前に供えられる。

苗を植える早乙女と児童たち＝６月12日、兵庫県淡路市の伊弉諾神宮

『日本書紀』『古事記』には、国産み・神産みを終えた伊弉諾尊が、「日本のはじまりの島」淡路島多賀の幽宮（かくりのみや）に鎮まったとあり、それが同宮の起源とされる。淡路の枕詞は「御食（みけ）向かふ」で、古くから海と山の産物に恵まれ、宮中に食物を献上してきた。同宮の御田植え神事は第二次世界大戦の影響で昭和16年以降途絶えていたが、氏子・崇敬者らの強い願いから、古老らの記憶をもとに平成3年に再現された。

「御斎田」（約240平方メートル）で田植えを行ったのは、白装束に赤いたすき、笠をかぶった早乙女姿の県立淡路高校（旧淡路農業高校、同市富島）の女子生徒や同宮いざなぎ會の女性ら18人と地元の保育園児ら18人。注連縄が張られた田に入り、氏子や保護者らが見守る中、本名宮司が打つ太鼓の音に合わせ、早苗を数本ずつ手に取り、丁寧に植え付けた。

同日は午前10時から同宮で神事が執り行われ、巫女2人により淡路神楽が舞われた後、境内の住吉神社にお参りし、拝殿前のしめ縄が張られた境内で、早乙女たちが苗を手に、「わかなへ　うえほよ…」と神職らが歌う「古謡御田植唱」に合わせて、「御田植踊」を奉納した。

本名宮司によると、住吉神社は古来、航海の神・港の神として祀られた神社であるが、当地の「すみの江さん」は稲作の神として信仰されてきたという。大阪の住吉大社にも大規模なお田植祭があるように、北九州に始まる水田稲作は、海の民によって瀬戸内から畿内へと伝播されてきたのであろう。

その後、神職と氏子がかごで担ぐ早苗を先頭に、列を組んで神宮近くの御斎田に移動。代かきされた御斎田で、最初に本名宮司が苗を植え、続いて早乙女が横一列に並び、張られた縄の目印を目安に、宮司の打つ太鼓の音に合わせて「イセヒカリ」の苗を植えた。

イセヒカリは三重県の伊勢神宮の神田で発見された、自然交配によるコシヒカリの突然変異種で、神聖な稲として神事などで使われている。コシヒカリより丈が低く、風雨に強い。苗は本名宮司が神事としてもみをまき、苗代で大切に育てられてきたもの。

早乙女による「御田植踊」の奉納

御斎田のほぼ半分まで植えたところで法被姿の児童が田んぼに入り、早乙女に助けられながら、苗を植えていった。見守る保護者らは子供たちの姿を映像に残そうと、カメラやスマホを構え、熱心に見守っていた。

記紀によると、大和王権が成立したとされる3世紀前半の第10代崇神、11代垂仁天皇の時代、三輪山山ろくを支配していたのが倭国造（やまとのくにのみやつこ）で、その氏族は淡路の海人集団と関係が深いという（新谷尚紀『神社の起源と歴史』吉川弘文館）。新谷氏は「倭王権の本拠地である大和盆地の主たる神である倭大国魂神と、それを祀る倭国造たる倭直（やまとのあたい）という氏族が、実は大和盆地の出身ではなく、瀬戸内海交通の要衝である淡路島の明石海峡あたりの出身であるという伝承があったということが重要である」（前掲書）と述べている。ちなみに、伊弉諾神宮は伊勢神宮と同緯度上にあり、中間点に飛鳥藤原京がある。

古代王権の成立と深くかかわる淡路島の稲作神事は、それを復活させた高齢者たちから若い世代へと、着実に継承されている。

灯

「時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。…キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。…

あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。

この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。」（エフェソの信徒への手紙1：10―14）

イエス・キリストの犠牲と執り成しにより、創造主との愛の絆を取り戻した者たちは、人類救済のみ業に献身し世界に広がった。しかしその間に教派分裂と争いが生じた。19世紀末、その反省に立って、傷を修復し一つの共同体を目指す運動が起こった。未だ道半ばであるが、前進すれば創造主への祈りの声が高まり、平和世界の様相も見え始める。（I）

天地

石垣島に暮らすアメリカ人のワイコフさん夫妻が、もう一つの自宅がある久留米市にしばらく滞在するというので、出版社の友人と訪ねた。アメリカ風のログハウスで、石垣島の自宅とは違い日本の大工が手掛け、主な柱にはH鋼が入っているという▼乗り換えの博多で金印「漢委奴国王」を見に福岡市博物館に行った。面白かったのは、古墳時代、飛鳥時代などという政権のありかを軸にした時代区分ではなく、奴国（なこく）の時代、鴻臚館の時代、博多綱首（こうしゅ）の時代など、福岡の人たちの生き方を軸にした区分だったこと▼西暦57年、後漢の光武帝が「倭奴国」の使者に印綬を与えたとされる金印が、江戸後期の1784年、志賀島で発見された。絹の長い紐の「綬」は発見されていない。福岡藩の儒学者・亀井南冥が、この印を上記の印と推定したのは、当時の学問レベルをうかがわせる▼当時、北部九州の有力な王たちが、朝鮮や中国に使者を送り、交流していたことは、中国系の鏡や貨幣の発掘から分かる。その後、2世紀後半の「倭国大乱」では、邪馬台国の女王・卑弥呼を共通の王に立てることで収まり、卑弥呼も中国の魏に使者を送って、金印「親魏倭王」を与えられている▼魏の皇帝は卑弥呼に「汝に好物を賜う」として銅鏡100枚も下賜している。その銅鏡は中央と地方の王権を結ぶ宝器として活用されたのだが、文書行政の基本である印綬より銅鏡を喜ぶ卑弥呼を皇帝は不思議がり、上のような言葉を残したという。日中の文化の違いが興味深い。

社説

時代を動かす宗教的情熱

大河ドラマ「青天を衝け」では、渋沢栄一がパリ万博視察を中心に派遣された訪欧使節団に会計係として参加し、近代化を進めるフランスはじめヨーロッパ各国を訪れる場面が展開されている。

ヨーロッパ資本主義の精神となったのが、カルヴァンの二重予定説に基づくプロテスタンティズムの倫理だとするマックス・ウェーバーの説はよく知られるが、フランスでその精神となったのは、道徳的な産業化を目指した一種の宗教運動「サン＝シモン主義」であった。

サン＝シモン主義

サン＝シモンはマルクスより少し前の社会主義思想家で、日本では空想的社会主義者とされることが多いが、それはマルクスがそう批判したからで、労働者の解放はブルジョアジーの協力によって実現できると考えた現実的な思想家であった。

彼はアメリカ独立戦争に参加して共和主義の影響を受け、フランス革命を支持したが、一党独裁の弊害を見て失望し、反対に回る。革命政府が没収した貴族の財産を担保に発行した国債が暴落すると、彼はそれを全部入手して国を乗っ取ろうと、秘かにベルギーの銀行家と買い集めるが、政府にばれて失敗した。

次にサン＝シモンは、理工科大学校ポリテクニークの前に自宅を構え、教授を招いて経済を学び、今でいう金融工学的な知識を得る。そして、「フランス社会は王侯貴族と農民の二つしかないが、実際には真ん中の層の実業家がこれからの社会を担っていく。生産に携わらない貴族や軍人を取り除き、産業人の社会をつくろう」と構想するようになる。王政や共和制など政体は関係なく、ヒト、モノ、カネのすべてを循環させることにより社会は豊かになると考えたのである。

銀行と株式会社が金を回すシステムだと知ったサン＝シモンは、民間の眠っている金を吸い上げ、将来性のある企業に投資するベンチャーキャピタルの創設や、株式会社を活発にするため証券取引所を組織し、不正のない株式投資の振興を図ろうと考えた。次に物流のための鉄道が重要だとし、1820年代にヨーロッパ中を鉄道で、さらに地中海を介して中東、アジアまで結ぶ計画を立て、さらに大型汽船を造り、アメリカと結ぶ大構想を立てている。

やがて、サン＝シモンのもとに理工科学校の生徒やユダヤ人金融家の子弟が集まるようになり、彼らはサン＝シモンの宗教的な面を受け継いだ人たちと、実業的な面を受け継いだ人とに分裂し、弾圧されたため、1830年代に離散し、運動は一旦終わる。

ところが、反乱を起こしたため牢獄に収監されていたナポレオン1世の甥のルイ・ナポレオンが獄中でサン＝シモンの著作を猛勉強し、その実現を目指すようになったのである。184

8年に二月革命が起こり、臨時政府が普通選挙で大統領を選ぶ制度を作ったところ、大統領選挙でロンドンにいたルイ・ナポレオンが75％の得票率で大統領に選ばれた。

ルイ・ナポレオンはサン＝シモン主義者をブレーンに集め、銀行を作り、鉄道網を10年でフランス中に広げ、郵便網も整備する。労使協調で労働者の賃金を上げて会社経営を成功させ、銀行はトルコやロシアにも投資するようになる。国民議会に対するクーデターを起こして独裁権力を掌握したルイ・ナポレオンは、1852年に皇帝に即位してナポレオン3世となり、イギリスから20年後れていたフランスを、それからの15年間で、GDPで追い越すまでに発展させた。その成果を世界に宣伝するのがパリ万博だったのである。

フランスへの途上、工事中のスエズ運河を見て驚いた渋沢は、巨大工事をしたのが国ではなくレセップス会社という私企業だと知り、株式会社の仕組みを学ぼうと決めている。フランスで渋沢の世話役になったのが銀行家のフロリヘラルトだったのも幸運で、渋沢は彼からフランスの資本主義を学び、旅費のメキシコ銀で鉄道債を買い、運用益を得ることで金融の仕組みも学んだ。民間人のフロリヘラルトが軍人と対等に話している姿に感動した渋沢には、次第に日本が目指すべき社会が見えてきたのである。

目指すべき社会は

持続可能な発展が国際的なコンセンサスを得つつある今、それを支える宗教的情熱はどこに求めることができようか。日本には、その発信源となる環境と歴史があるように思える。

国際禅研究プロジェクト研究発表会

李舟撰『能大師傳』の歴史的意義

「国際禅研究プロジェクト」（伊吹科研）本年度第1回研究発表会がオンラインで開催され、国際禅研究プロジェクトの伊吹敦・研究代表者（東洋大学教授）が「李舟撰『能大師傳』の内容とその歴史的意義」との論題で発表した。要旨は次の通り。

李舟（740―787）撰の『能大師傳』は早くに失われ、現在は、姚寛（1105―62）の『西溪叢語』中に、内容についてのわずかな言及があるのみ。同書の説く「慧能傳」は、先行する敦煌本『六祖壇經』と『曹溪大師傳』に基づき、その両者を総合する形で成立し、また、後世に多大な影響を与えた。『六祖壇經』と『曹溪大師傳』は8世紀後半に荷澤宗内部で相次いで作られたものと見られるが、両書で提示された「慧能傳」の間には多くの相違や矛盾が認められ、「六祖」としての普遍的な慧能伝を作ることが喫緊の課題となり、そうした中で現れたのが李舟の『能大師傳』であったと考えられる。李舟は両書を総合する際、まず『曹溪大師傳』の年代論上の矛盾と混乱を解消し、その後、それに含まれていない内容を『六祖壇經』から取り込む必要があった。

李舟は隴西の成紀（甘粛省）の人で、16歳の時に黄老學で科挙に合格し、23歳で金吾衛大將軍掾、25歳で湖南觀察使孟皞従事、兼觀察御史、その後地方官を歴任した後、780年に宰相楊炎の取り立てで金部員外郎となり、781年には吏部員外郎となったが、楊炎の死後、讒言によって左遷され、峽州（湖北省）の刺史、783年頃、虔州（江西省）の刺史となった。784年に饒州（江西省）で隠退し、787年に病死している。

李舟は熱心な仏教徒で、馬祖の弟子、西堂智藏（738―817）の在家の弟子で、42歳の時には、金部員外郎、吏部員外郎等の職にあり、成立間もない敦煌本『六祖壇經』と『曹溪大師傳』を入手できる環境にあった。その後、刺史となった虔州では西堂智藏が教線を伸ばしており、また、李舟が智藏の在家の弟子であったとする伝承があるので、李舟が智藏の重要な檀越であったことは史実であろう。李舟が饒州（現在の江西省上饒市）に永住の地を定めたのも、智藏に師事することが一つの目的であったと思われる。

それまでの六祖慧能の伝記は全て荷澤宗によって書かれ、荷澤神會のみを特権化しようとするものばかりだった。こうした中、馬祖の後継者となった智藏は、それとは異なる洪州宗の「慧能傳」を必要としていたはずで、文化人として名高い李舟に新たな「慧能傳」の撰述を依頼した可能性がある。この推定が確かであれば、『能大師傳』には、六祖慧能―南嶽懐讓―馬祖道という系譜を正当化する記述があったと考えるべきである。

李舟の『能大師傳』は敦煌本『六祖壇經』と『曹溪大師傳』を総合するとともに、その矛盾を止揚し、『寶林傳』に取り込まれることで、後世の燈史の基礎となった。『曹溪大師傳』が9世紀の初めに入唐した最澄がもたらした一本以外に存在が全く知られないのは、李舟撰『能大師傳』によって基本的に全てにおいて乗り越えられたため存在意義を失い、散侠したからである。また、『能大師傳』の散侠も、その説がほぼ『寶林傳』に取り込まれたため、存在意義が失われたためであろう。李舟撰『能大師傳』は『曹溪大師傳』に勝るとも劣らぬ極めて重要な歴史的な意義を有したと見るべきだ。

李舟撰『能大師傳』は、その独自の存在意義を失い、やがて歴史の静寂に忘れ去られたが、「六祖慧能」の伝記が確立される上で果たした歴史的意義は極めて大きい。李舟撰『能大師傳』の存在を考慮に入れることで各種「慧能傳」に見られる年代論の混乱のかなりを説明できる。それ故、「六祖慧能」の伝記が形成される過程を探る上で不可欠の資料と言える。

国際禅研究プロジェクト研究代表者の伊吹敦東洋大学教授

宗教新聞社
本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。
霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL:03-3811-5361 FAX:03-3815-5554